

第77回 近畿地区卒業設計コンクール応募作品一覧

令和5年4月18日 日本建築学会近畿支部

《短大・高専・専修学校の部》

| No. | 作品名                                                | 学生氏名  | 所属                 | 図面枚数 |
|-----|----------------------------------------------------|-------|--------------------|------|
| 1   | 街歩きが楽しくなる空き宿改修                                     | 丹下裕規  | 京都建築専門学校 建築科二部     | 9    |
| 2   | <a href="#">うたせの便り</a>                             | 藤代涼太  | 中央工学校OSAKA 建築学科    | 20   |
| 3   | <a href="#">ゐの議会—たつの市龍野醤油製造跡地に<br/>おける保存活用の提案—</a> | 大谷ちとせ | 明石工業高等専門学校 建築学科    | 9    |
| 4   | 架け橋と成る～進行する空き家問題と過疎化地域再生について～                      | 山口力空  | 中央工学校OSAKA 住宅デザイン科 | 17   |
| 5   | 政治理念の建築化：日本共産党本部                                   | 谷本 司  | 京都建築専門学校 建築科二部     | 20   |
| 6   | <a href="#">フナマチの円居 持続可能な遊漁の未来</a>                 | 野川瑛統  | 明石工業高等専門学校 建築学科    | 5    |

(受付順) 以上6点<No. 欄に○印のものは入選作品>

《工業高校建築科の部》

| No. | 作品名                        | 学生氏名         | 所属                       | 図面枚数 |
|-----|----------------------------|--------------|--------------------------|------|
| 1   | いのちのレシピ                    | 寺田優芽<br>西川陽愛 | 大阪府立工芸高等学校<br>インテリアデザイン科 | 5    |
| 2   | <a href="#">自由が広がる公園</a>   | 片渕栞帆         | 大阪府立工芸高等学校<br>建築デザイン科    | 5    |
| 3   | <a href="#">布が紡ぐ高砂の学び舎</a> | 北風日渡         | 兵庫県立兵庫工業高等学校 建築科         | 9    |
| 4   | Earth Back House           | 津田緋色<br>樋口季希 | 大阪府立工芸高等学校<br>インテリアデザイン科 | 3    |
| 5   | シニアタウン                     | 堀端 侑         | 大阪府立工芸高等学校<br>建築デザイン科    | 4    |

(受付順) 以上5点<No. 欄に○印のものは入選作品>

日本建築学会近畿支部

令和4年度近畿地区短大・高専・専修学校並びに工業高校  
卒業設計コンクール（第77回）審査報告

審査員長 若本 和仁

令和5年4月18日（火） 審査会場：オンライン（Zoom）を利用

審査員長（互選） 若本和仁

審査員（50音順） 朽木順綱・光嶋裕介・小見山陽介・高木真人・高原浩之・宮地茉莉

応募作品 短大・高専・専修学校の部6点、工業高校の部5点（別紙参照）

### 審査経過と審査講評

本年度は、各審査員が事前に配布された応募作品のPDFデータを審査当日までに確認した上で、4月18日（火）にオンライン（Zoom）により審査を行った。審査当日は審査員7名のうち6名が出席し、1名が欠席した。審査に先立ち、卒業設計審査の目的・対象・提出・審査などの内規を確認し、審査員の互選により審査員長を選出した。

本年度の応募作品は、「短大・高専・専修学校の部」6作品、「工業高校の部」5作品であった。審査は、まず各審査員がそれぞれの部門において優れていると思う作品（3点以内）を投票し、ついで、主に投票した作品に対して各審査員がコメントした上で、議論するという流れで進めた。欠席の審査員については事前に投票する作品を事務局に連絡し、その内容を投票に反映した。

「短大・高専・専修学校の部」の投票結果は、No. 2、No. 3、No. 6が5票、No. 5が3票であった。各審査員が得票の多かった作品を中心に自由に意見を述べ、議論を行った。議論の主な視点は、敷地やその周辺のリサーチのレベル、コンセプト（課題設定）の適切さ、コンセプトと提案内容の一貫性、造形の魅力、図面表現を含めた技術レベル、新規性・独自性、現実性であった。No. 2については、施設規模に疑問があるものの造形の魅力が評価され、No. 3とNo. 6については、緻密なリサーチとそれに基づく説得力ある提案が評価された。No. 5については、断面計画等の空間的魅力が評価されたが、コンセプトと空間が一貫していない点やデザインの合理性に疑問が呈された。こうした議論の後に、当初の投票の変更を受け付け、改めて得票を確認したところ、No. 2とNo. 6が6票、No. 3が5票、No. 5が2票となった。この結果、No. 2、No. 3、No. 6の3作品を入選作品として選出した。

ほとんどの応募作品が、敷地とその周辺を丁寧に調査し、地域課題の発見や地域の魅力の掘り起こしを行った上で、建築が社会に果たす役割を提案したものであった。その中でも入選作品は、土木的要素や地域構造の改変を含むものであった。

「工業高校の部」の投票結果は、No. 2が5票、No. 4が4票、No. 1とNo. 3が3票であった。各審査員が得票の多かった作品を中心に自由に意見を述べ、議論を行った。議論の主な視点は、コンセプト（課題設定）の適切さ、コンセプトと提案内容の一貫性、造形と図面表現

を含めた技術レベル、新規性・独自性であった。No. 2については、建築の内部空間がよく検討され、それを複数のパースで的確に表現している点が評価された。No. 3については、地域課題解決の一助となるため古民家改修に取り組んだ点が評価された。No. 1については、SDGsの17の課題のうち国内での提案では見逃されがちな「1. 貧困をなくそう」に取り組んだ点が評価された。No. 4については、既存の工法をベースに持続可能な住環境のプログラムを提案したものであったが、工法の持つユニークさを超える提案に至っていない点が惜しまれた。こうした議論の後に、当初の投票の変更を受け付け、改めて得票を確認したところ、No. 2が6票、No. 3が5票、No. 1が3票、No. 4が1票となった。この結果、No. 2、No. 3の2作品を入選作品として選出した。

応募作品の課題へのアプローチの方法や表現は様々であるが、高校生としてできる範囲で最善を目指したものであった。その中でも入選作品は、建築の内部空間やそこでの活動を丁寧に計画したものであった。

最後に、今年度は専修学校の専攻科で学士を取得された応募が大学部門に移行したことや、応募されなかった専修学校や高校もあったことにより、応募作品数が少ないコンクールとなった。このコンクールの目的は「学生、生徒の設計技能向上のために行う。」とされており、多くの作品が参加し切磋琢磨することが望まれる。そのために、積極的に作品を応募していただきたい。

(若本)

## うたせの便り

藤代 涼太君（中央工学校OSAKA）

コンクリートの大きなフレームと木造の小さなフレームが交錯し、ランドマークとして海辺に建つ建築の存在感が魅力的で、高く評価した。橋や船のメタファーとしての印象的な構造体は圧倒的で、20世紀後半にイギリスで流行したハイテクスタイルを思わせる強度がある。いささか大き過ぎるようにも感じるが、モニュメントとしての建築は、そこでしか味わえない海鮮料理を提供するなど、人を集客するさまざまな展開可能性を拡張する自由な用途があって良い。多様な人が集う建築が地域に根付くことで、文化が育まれることに希望を感じる。

（光嶋）

## ゐの議会—たつの市龍野醤油製造跡地における保存活用の提案—

大谷 ちとせ君（明石工業高等専門学校）

江戸時代から醤油産業を支えてきた兵庫県たつの市龍野城下町に残る現存する蔵や倉庫の醤油製造建物を「ゐの議会」と名づけて議会機能と住民のサードプレイスとしての2つの機能を持つ場所に蘇らせる提案である。

提案のプロセスとして、市の庁舎内にある議場が市民から遠い存在であることに疑問を呈し、重要伝統的建造物群保存地区に位置するまちの真ん中に設ける計画として、実在する醤油会社施設の増改築の変遷を江戸時代にまで遡って調査し、既存建物の利用と新たな建物を付け加えることで生まれる新たな施設の使われ方や生活への影響を多世代にわたって想定している。このように、まちの歴史に敬意を払いながら、建築というハードから生み出されるポジティブなソフトを丁寧におわかりやすくプレゼンテーションしていることも高く評価した。

入選者の大谷さんが、今後も住民目線をベースとして、建築のデザイン力を用いて社会の課題解決に臨む姿勢、意欲を持ち続け、益々成長して行かれることを期待している。

（高原）

## フナマチの円居 持続可能な遊漁の未来

野川 瑛統君（明石工業高等専門学校）

自然環境と人間とはつねに相反するのではなく、ときに両者が良好な関係を結ぶことで互いに恩恵を享受できることがある。たとえば里山とよばれる、人手の入った山林の生態系がその典型だろう。本提案はこうした良好な関係を、「円居」という共生の理念のもと、明石浦漁港沿岸の瀬戸内海において構築しようとするものである。必ずしも自然環境のために社会生活が犠牲になることなく、むしろ地域に根付いていた遊漁業を振興することで、観光やまちづくりと環境再生とがパズルを解

くように一体的に最適化され、「海と人の再接続」として空間化される。遊漁船の形態や海苔干しの景観など、地域固有のヴォキャブラリを丹念に収集しつつ、海と陸とが波打ち際のように出入りする魅力的な場所を作り出す。広場と地下空間との接続にはやや課題が残るものの、綿密な調査と誠実な愛郷心とが情感豊かなプレゼンテーションとして結実した良作といえる。

(朽木)

## 自由が広がる公園

片渕 栞帆君（大阪府立工芸高等学校）

公園の中に、図書館と幼稚園を計画した提案である。「自由な本の森」と題された図書館は、六角形のグリッドで構成され、こどもたちの利用も想定した明るく開放的なスペース、落ち着いて静かに本を読めるスペース、地域に開放されたカフェなど多様なスペースを組み合わせうまく構成されている。吹き抜けを利用して、壁際に階段を巡らせ、さまざまな高さの本棚を配置した内部パースからは、親子で自由に楽しめるイメージもよく伝わってくる。一方、「広がる友の輪」と題された幼稚園は、八角形の遊戯室と様々な角度に振られた複数の建物が中庭を囲むように配置されている。各建物の外周に沿って、ベンチのようなデッキのような空間が巡っているのが面白いが、地面からやや高い位置にあるのでどういう使われ方を意図したのか気になる。また、せっかくなので、教室の内部と外部をもっと広くつなげた方がいいかもしれない。そして、公園とも何らかの関係を持たせられれば、公園の中に計画したという設定に意味を持たせることができ、説得力が増すであろう。

(高木)

## 布が紡ぐ高砂の学び舎

北風 日渡君（兵庫県立兵庫工業高等学校）

兵庫県高砂市高砂町の大正期に建設された畳店をリノベーションし、地域住民のサードプレイスを提案した作品である。海運の要衝だった高砂の歴史や、現在の商店街、地域のイベントなど、緻密に敷地を読み解いた上で、大正期の町家を丁寧に実測し、多世代交流を促すプログラムを取り入れ、海運業の発展をもたらした「松右衛門帆」から着想を得た曲線屋根で既存建築と通りを緩やかに繋いでいる。地域の歴史・伝統的な文化を継承しつつ、新しい文化を生み出す場所として、単なる空き家のリノベーションで終わらせず造形的な設計に挑んだ意欲を評価した。

サードプレイスとして多様なプログラムを取り入れようとしたあまり、それぞれの室の用途を限定してしまい、空間として窮屈になってしまっているのが残念である。大正期の町家のリノベーションとして建具をうまく利用すれば、さらに柔軟な空間提案ができただろう。

(宮地)